



徳島大学病院 産科婦人科

### 岩佐武診療科長



# 不妊検査は男女とも受診を

妊娠を望んでいるにもかかわらず、一年以上妊娠しない場合に不妊症と診断されま  
す。一般的にカップルの10、  
15%前後は不妊症であること  
されており、決してまれな疾患

ではありません。不妊症の原  
因として、男性側では精子の  
数や動きの問題、性交渉をど  
れないことが挙げられ、女性  
側では排卵の障害や卵子を運  
ぶ管(卵管)の閉塞などが挙  
げられます。また、明らかな  
原因がなくても、加齢ととも  
に妊娠率は低下します。

一般的に35歳未満であれば  
一年以上妊娠しない場合、35  
歳以上であれば半年以上妊娠  
しない場合に検査を受けるこ  
とが勧められています。また、  
月経異常や子宮内膜症など、  
不妊の原因となり得る疾患を  
合併している場合は、直ちに  
検査を受けることをお勧めし

查を受けることが大切です。  
不妊治療にはさまざまな方  
法がありますが、基本的には  
負担の軽いものから開始し、  
妊娠に至らなければ徐々に治  
療の強度を上げていくことに  
なります。ただし、不妊原因  
や治療に対する希望はカップ  
ルごとに異なりますので、治

す。他の治療法に比べて体外  
受精・顕微授精の治療費は高  
額ですが、特定不妊治療費助  
成制度を利用することで費用  
の一部が助成されます。ただ  
し、この制度には回数制限や  
年齢制限が設けられており、  
全ての治療周期に適用される  
ものではありません。

ます。検査に関して、男性は  
精液を採取して精子の状態を  
確認すること、女性は超音波  
や血液検査、造影検査などを  
用いて子宮や卵巣の形態や機  
能を評価することが必要とな  
ります。原因の見落としを防  
ぐため、男女ともに一連の検

療方針を決める際には医療者  
側との間で十分相談しておく  
ことが必要です。現在、最も  
成功率が高いとされる治療法  
は体外受精・顕微授精で、2  
018年に出生した子どもの  
およそ15人に1人は、この方

法で妊娠したとされていま  
ます。不妊治療の発展によって、  
以前であれば妊娠を諦めざる  
を得なかったカップルでもお  
子様を持つことが可能となっ  
ています。妊娠に関してお悩  
みの方は、早めに産婦人科で  
診察を受けることをお勧めし  
ます。